



日本看護系学会協議会

ニュースレター

第 16 号

2011年10月1日 発行

編集発行

日本看護系学会協議会

(事務局) 〒252-8530

神奈川県藤沢市遠藤4411

慶應義塾大学 看護医療学部内

日本看護系学会協議会 事務局

E-mail : jana-jimukyoku@sfc.keio.ac.jp

FAX : 0466-49-6225

日本看護系学会協議会緊急シンポジウム

東日本大震災 ―いま、これから求められる看護系学会の活動―

2011年7月23日、慶應義塾大学信濃町キャンパスにおいて、日本看護系学会協議会・日本学術会議共催の緊急シンポジウムが、「東日本大震災 ―いま、これから求められる看護系学会の活動―」のテーマのもと、南裕子理事の司会により開催されました。当日は、多くの方のご参加を得て、災害支援活動に実際に携わっていらっしゃる会員学会からのシンポジストを迎え、看護系学会としての災害支援活動に多くの示唆を得る大変有意義な機会となりました。以下、各シンポジストの発言要旨を掲載させていただきます。なお、当日の詳しい内容は、本協議会のホームページにも掲載しておりますので、ホームページもぜひご覧ください。

日本災害看護学会の災害看護活動

日本災害看護学会 理事長 山田 覚

日本災害看護学会は、阪神・淡路大震災を契機に1998年に発足し、災害看護学の知識や実践の体系化をはかり、災害看護学の発展を通して、人々の生活と健康に寄与することを目的に掲げ、これまで活動して参りました。本学会では、災害に対する具体的な活動として初期調査、初動調査、先遣隊というシステムを持っており、学会発足直後から、初期調査（発災直後の電話調査）と初動調査（発災1～2ヶ月後の現地調査）は行っておりましたが、発災直後の現場の状況が電話では十分に把握できないこと、および大災害の場合にはその様な情報収集ができないことから、これまでの国内での災害看護活動を通して、先遣隊というシステムを作り上げて来りました。先遣隊とは、大規模な災害が発生した場合、災害看護の専門家として、現地に入り、看護ケアの提供や支援体制を現場で整える役割（ケア体制作りの助言や橋渡し）の一部を担いつつ、被災者などの健康

問題、看護ニーズ等の情報収集と査定を行い、必要な支援を明確にする精鋭部隊です。この活動は原則として国内災害を対象とし、この活動を通じて災害看護の知識の蓄積に貢献します。これまで、正式な派遣ルールができ上がったからは、平成20年の岡崎水害と21年の佐用町水害に先遣隊を派遣しており、今回で3回目になります。今回は発災翌日の3月12日から関東方面に1隊と、東北方面に2隊派遣しました。特に東北地方の先遣隊は、結果的に福島、宮城、岩手の各県への派遣となり、23日まで3次隊を派遣しております。その後、発災後の1ヶ月半から2ヶ月の活動として先遣隊3隊を宮城、福島、岩手のそれぞれに派遣しております。これらの活動の報告は、本学会のホームページに、日々の活動およびまとめの報告書として掲載しています。また、継続的な活動として、先遣隊のフォロー調査隊を7月下旬から8月上旬に、それぞれの県に派遣する予定です。

専門的能力を持つ看護実践者の活動と協働の重要性

～日本災害看護学会第1派遣部隊の活動～

日本災害看護学会 理事 酒井 明子

3月11日に発生した東日本大震災に対し、日本災害看護学会からの第1派遣部隊は、発災翌日の3月12日出発し13日～3月17日までの5日間、福島県と宮城県で活動した。被災地では電話・メールが繋がらないことやガソリン不足の問題があり、多くの行方不明者の安否確認や支援に支障をきたしていた。積雪もあり、気温は零下となる非常に寒い厳しい環境であった。肺炎や喘息の増悪、ストレスと寒冷による呼吸器疾患の悪化、慢性疾患の増悪、厳しい寒さによる低体温、車中泊による肺塞栓症、感染症の増加、津波時に泥水を飲んだ可能性があることと寒冷・ストレスによる下痢などの胃腸症状の出現などが見られ、今後の災害関連死が懸念された。特に高齢者の健康状態の悪化は深刻であった。また、妊婦には流産の危険性があった。更に、子どもたちへのこころのケア、学習への支援などは長期的な問題であり、災害発生直後からの災害時要援護者の問題を再考する必要があると感じた。原子力災害の問題は、明確な情報がないため、住民間では、かなり噂が回っていた。正確な情報収集と被ばく医療に精通した専門家に

よる支援が必要であった。

避難所の支援は人的資源が圧倒的に不足しており、被災者の話をゆっくり聞く余裕がなく、個別の対応には限界があった。また、福祉施設でも支援者は疲弊しており、看護師などの人的支援が必要であった。過酷な環境の中でお互いに支え合って我慢している被災者の姿を見ると、1週間以内の早い時期の避難所支援が必要であると感じた。

医療過疎の地域で、病院・施設も倒壊しており、緊急性の高い薬や治療の必要性の判断を迫られる場面も多い。また、被災者の健康状態は日々刻々変化する。特に現場では、ライフラインが寸断されているため、現場に身をおきながらの判断や直接支援が有効である。必要な支援が受けられないまま健康状態が悪化していく被災者に対して、専門的能力をもつ実践者の活動と連携が重要であった。災害発生1週間内の早い時期に被災地で連携しながら活動する災害看護の支援ネットワークを早急に検討する必要があると感じた。

被災地の立場から 一現地の大学における活動を通して

日本循環器看護学会 理事長 吉田 俊子

東日本大震災による宮城県の死者・行方不明者は12,000人近くに達し、震災直後は32万人以上が避難する甚大な被害を受けた。

診療施設においても、ライフラインや情報の寸断、患者や被災者への対応、自家発電の危機、診療中断、著しい食糧、薬剤や衛生材料、燃料不足など非常に過酷な状況に陥った。また搬送患者は津波による健康障害が多くを占め、阪神淡路大震災と違った状況があった。

様々な支援の手をいただく中、宮城大学も3月～4月末に、看護学部教員を中心としたローテーション編成を組んで地域支援活動を実施した。避難所ではノロウイルスなどの感染症対策、慢性疾患や有症状者、外傷、ADL低下の高齢者や乳幼児への対応、衛生管理等にあたった。また甚大な津波被害を受けた市では、在宅患者や自宅居住者の健康状態把握に向けた巡回療養支援隊が発足し、巡回訪問相談業務に従事した。在宅医療の中断による病状の悪化、褥瘡発生、家族を失った心の痛手など心身両面の健康状態の急激な悪化があり、ライフライン、生活物

資不足や地区機能の崩壊、情報不足等の厳しい生活環境は悪化に影響を及ぼしていた。また交通機関の寸断や介護福祉サービスの低下による高齢者の機能低下、さらに若い家族の死亡による介護や家事、育児の負担増など、疲労蓄積も大きな問題であった。また医療者や支援者も同じ被災者であり過酷な状況にあった。これらを踏まえ、現在、JSTの支援を受け、被災者と支援者の疲労を適正評価して疾病予防につなげる支援活動を展開中である。

これらの活動を通して、心のケアの重要性とともに対象の生活を支えていく看護支援の重要性を深く再認識した。災害弱者の健康増悪、慢性疾患の増加等、予測される健康問題への早期の対策が必要であり、日本看護系学会協議会を通して各学会が連携し、長期的な支援に向けた体制を構築していくことが重要である。さらに復興に向けた看護支援リソース、被災地域の再雇用支援、さらに被災地域の研究・学術活動の活性化をはかっていくことも重要と考える。

看護の真価が求められる被災地ケアのこれから

日本看護系学会協議会 監事 川嶋 みどり

災害発生以来、東日本の沿岸部の医療システムが崩壊しかけている状況を知り、看護専門職として何をすべきかを考え続けて来ました。全国各地からの献身的なボランティア活動も多く報じられましたが、これらの活動は無限に続くわけではありません。何と言っても将来を展望しながら現地完結型のシステムや方策を考える必要と、その中核となって機能する部門や人の必要を痛感した次第です。

そこで、現職をリタイアしてなお、知力、体力、気力のある看護師を中心にした“東日本これからのケア”プロジェクトを立ち上げ、過去の豊富な経験を基盤に各自の専門性を活かして適時適切な支援策を、国・自治体に提言しその実現を図ろうという目的です。そして4月以来、手探りではありますが、現地の自治体訪問や看護師らとの討議をしながら方策を検討している立場から、また、日本看護系学会協議会の監事の立場から、看護学術団体としての災害支援の方向性についても何らかの

提案ができればと考えております。

生活環境も人的関係も激変した場で暮らす要介護・要支援の高齢者や障害者の方たち、また、持病を抱えながら治療中断して不安を抱えた人々に対するケアを思うと、まさに、看護専門職の出番がいよいよこれから始まる予感がいたします。医療的介入の可否を含めてその方にどのようなケアを必要としているかアセスメント(ケアのトリアージ)をする必要があります。そして何よりも、まず、生活環境の整備から始めなければなりません。

この震災で、医療機関や医療機器もカルテも流されました。今、改めて、新しい医療のあり方を考えるべきではないでしょうか。効率と経済性を優先した原発事故の教訓からも、高度医療の名のもとにあまりにも機械的になってしまった医療現場を、人間中心のケアに方向転換すべきではないでしょうか。その中核としての看護たり得るかが問われていると思います。

〈平成23年度日本看護系学会協議会 総会議事録〉

日時：平成23年 6月5日(日) 13時00分～14時25分
場所：東京女子医科大学 看護学部第一校舎2階 123講義室
(〒162-8666 東京都新宿区河田町8番1号)
出席：開会時29学会出席
議事録作成：日本看護系学会協議会事務局

資料

- 1) 庶務報告
- 2) 広報報告(ニュースレター、HP)
- 3) 第12回シンポジウム報告
- 4) モデル事業報告
- 5) ナーシング・サイエンス・カフェ事業報告
- 6) 科学研究費申請枠拡大推進活動報告
- 7) 学術会議との相互交流活動報告
- 8) 高度実践看護師制度検討関連報告
- 9) 会計報告・会計監査報告
- 10) 平成23年度 事業計画案
- 11) 東日本大震災支援事業
- 12) 平成23年度 予算案

次第

1. 定足数の確認 (太田喜久子)

38学会中、全学会より回答を得、開会時29学会の出席、2学会より委任状があった。協議会規約第8条に基づき正会員の過半数の出席を得ており、本総会の成立が承認された。

2. 会長挨拶 (太田喜久子)

日本看護系学会協議会(JANA)の会員は現在、38学会である。一昨年より、看護界では、特定看護師(仮称)に関する関心が高まっており、厚生労働省において検討が続いている。本協議会においても、看護の役割拡大という観点からよい方向に進むよう、「高度看護実践とは何か」ということについて、会員学会および役員会の中で検討を重ねてきており、先日、その結果を提言として厚生労働省に提出したところである。また、本年3月11日に発生した東日本大震災に関しても、看護系学会としてどのような活動ができるかを検討している。各学会で独自の活動をされているところもあるが、本協議会としても、各学会に窓口をおいていただき、情報交換しながら今後も看護系学会として何ができるのかを検討していきたい。こうした大きな動きの中で、社会に対して人々の健康と生活をどのようにして守っていくためには、本協議会が一丸となる必要があり、役割の重要性を痛切に感じている。これから本協議会がどの方向に向かっていけばよいのかという意味でも、大きな節目を迎えていると考えている。

3. 議事録確認署名人の承認

議長、会則6条2項に基づき、会長太田会長にお願いする。議事録案は事務局で作成し、議事録確認署名人に確認をお願いしたい。

議事録確認署名人として次の2名が承認された。

黒江ゆり子 氏 (日本看護診断学会)

日沼 千尋 氏 (日本小児看護学会)

議事録は、役員会で確認された後に、2名の議事録確認者による署名を経てニューズレターにて報告する予定である。

4. 報告・審議事項

1) 平成22年度活動報告と承認

(1) 庶務報告 (宮脇 美保子) (資料1)

- ・現在の会員数38学会であり、平成22年度には日本看護アディクション学会の入会があった。
- ・役員会は、前回の総会以降、本総会までの1年間に7回開催した。これは、本協議会の活動の拡大に伴い、開催の必要性が生じたためである。
- ・役員会における主な議題は、第12回シンポジウム、科学研究費申請枠拡大、高度実践看護師制度のありかた検討会、東日本大震災支援について等である。

(2) 広報 (ニューズレター・HP) 報告 (田中美恵子) (資料2-1, 2-2)

- ・ニューズレター14、15号を発行し、会員および関係団体に配布した。
- ・HPの維持、管理として、会員情報の更新、第12回シンポジウムの案内と報告を掲載した。
- ・HP上に東日本大震災関連の支援情報として、会員学会から届いた情報をまとめて掲載している。
- ・平成23年度は、ニューズレター16、17号の発行および東日本大震災関連情報も含めたHPの維持・管理を予定している。

(3) 第12回シンポジウム報告 (遠藤俊子) (資料3)

- ・第12回日本看護系学会協議会シンポジウムを、平成22年12月4日「高度実践看護師の認定における学会の役割」というテーマで第30回日本看護科学学会の会期(札幌)にあわせて開催した。250名近い参加者があった。内容の詳細は、ニューズレター14号およびHPに掲載しているので参照いただきたい。

(4) モデル事業報告 (手島忠) (資料4)

- ・本モデル事業は、当初内科学会に事務局をおいていたが、平成22年4月から一般社団法人日本医療安全機構を立ち上げ実施している。本来であれば平成22年度に法制化する予定であったが、政権交代もあり法制化が見送られたため、モデル事業のまま進行している。平成22年度は、5事例について本協議会から評価委員を推薦した。内訳は、東京地区2名、愛知地区2名、新潟地区1名である。今後も、このような形での協力依頼が予定されているため、モデル事業へのご協力を承諾いただいた学会にはその旨をお伝えいただきたい。

(5) ナーシング・サイエンス・カフェ事業報告 (宮脇美保子) (資料5)

- ・平成22年度は、4学会からナーシング・サイエンス・カフェ開催に伴うグッズ提供の申請があった。平成23年度は、すでに4学会から申し込みを受けている。今後、開催を予定している学会は、HPに掲載されている申し込み要領を参照の上、事務局まで申し込んでいただきたい。

(6) 科学研究費申請枠拡大推進活動報告 (島内節) (資料6)

- ・科学研究費申請枠拡大のための活動を通して、看護全体の獲得額を高めることを意図している。
- ・資料6の1ページに平成22年度に行った事業内容をまとめている。看護学学科にどのような細目を設定すべきか、あるいは独立させるべきかを検討した。平成22年度、実際に獲得した補助金の細目における申請及び採択状況について分析した。その結果、全体の実態に関する分析、高齢者を独立させたほうがよいという結果が出た。看護学学科が獲得している補助金全体(1,529億)に占める配分割合は、1%程度であり、わずかながら年々(2007年度1.05%→2010年度1.49%)増加している。看護学学科の中では、老年看護に関するキーワード(老年・高齢者・認知症など)が多く、地域・老年看護学、基礎看護学、臨床看護学、生涯発達看護学に含まれており、数多く採択されていることが明らかになった。これは、社会的ニーズを反映しているものと考えられる。こうした結果を踏まえて、役員会で検討の上、地域・老年看護学から高齢者看護学を独立させることを要望することとし、太田会長から日本学術振興会研究事業部研究助成担当課に要

望書を提出した。現在、提出した要望書は審議中であり結果は出していない旨、日本学術振興会専門研究員の高見沢恵美子氏より報告を受けている。

- ・資料6-2は、日本学術振興会研究事業部研究助成担当課に要望したコピーであるが、日本看護系大学協議会となっているが、正式には日本看護系学会協議会であり、修正されたものを提出している。
- ##### (7) 日本学術会議との相互交流活動報告 (南裕子) (資料7)
- ・日本学術会議は、東日本大震災が起こった後、次々と提言を出している。
 - ・日本学術会議のシンポジウムの案内については、会員へは本協議会の事務局から転送メールでお知らせしている。ので詳細は省略させていただく。
 - ・日本学術会議の会員としての役割は、21期の任期が満了する今年の9月末日で終了するため、10月からは新しいメンバーとなる。現在、選挙を行っている段階であり、結果はまだ出ていないが、会員1人および連携会員は今期と同様の人数を確保できるという見通しをもっている。特に、本協議会と関連が深い分野は、健康・生活科学分野で、パブリックヘルス科学分科会、看護学分科会、生活科学分科会、健康スポーツ科学分科会の4つの領域が中核となっている。看護職者は、パブリックヘルス科学分科会等の中にも入っているが、看護学分科会が主であり、委員長は南氏、副委員長は太田氏である。この分科会では、高度実践看護師に関する提言をまとめているところであり、その一部が総会終了後の検討会において、内布氏より報告予定である。
 - ・健康生活科学委員会は、4領域であるがその他に、それぞれの課題を取り込んで検討する会がある。その一つが高齢者の健康分科会であり、委員長は金川氏である。このように、看護学の研究者が委員長等の役割を担うようになってきていることが、今期の特徴である(資料7)。
 - ・その他として、こどもの生育環境に関する検討、提言を行っている委員会に片田氏もはいており、また、生活習慣病対策部会では正木氏が幹事を務めている。
- ##### (8) 高度実践看護師制度に関する検討報告 (小松浩子) (資料8)
- ・高度実践看護師制度に関する検討事業は、今年の総会で承認され委員会としての活動を続けている。
 - ・活動内容としては、早急に特定看護師(仮称)ということについて、さまざま制度化の動きがあったため、それに関して、本協議会がどのような取り組みをすればよいかということ、検討してきた。具体的には、昨年、総会終了後の7月19日、25日に緊急集会を開催し、会員学会の皆様にお集まりいただき特定看護師(仮)について検討した。特に、それぞれの専門分野の中で、本当に、看護師の役割拡大に必要な医行為とは何なのか、どのような目的で、看護行為と医行為を取り込みながら役割拡大していくのかという点について各学会で検討いただいた。暑い夏の時期にご協力いただき、会員学会の皆様には、改めてお礼申し上げたい。各学会で検討していただいた結果を8月末までに担当理事に提出いただき、それをもとに、その後の役員会において(9月、10月、1月)本協議会の提言としてまとめるための検討を重ねてきた。
 - ・平成23年1月18日までに、提言に関するおおまかな案を作成したが、そこに至る過程では厚生労働省に設置されている検討会も進んでいたため、看護系学会がどのような検討を進めているかを報告する必要があると考えた。その機会を12月20日のワーキングの中で得ることができたため、本協議会で検討した内容をプレゼンテーションした。
 - ・2月には、本協議会の役員会で作成した提言案を会員学会にお送りし、ご意見をいただいた。それらのご意見をもとに2月、3月と修正を重ねた。提言に対する反対意見も含めてさまざまなご意見をいただいたことに対して、お礼を申し上げます。本日は、5月14日の最終版を配布させていただいたが、その内容としては提言に対して不承認であった5学会の意見も含めて詳細に記載している。
 - ・提言は、太田会長から5月14日付で厚生労働省看護課に提出された。
 - ・総会終了後のありかた検討会では、これまで1年間のそ

それぞれの団体の動きも含めて、意見交換ができることを願っている。

- (9) その他 (太田喜久子) (資料11)
- ・平成22年度の事業計画にはなかったが、3月11日に発生した東日本大震災に関する活動を始めている。
 - ・3月15日には、神戸にあるWHOセンター、日本災害看護学会、日本看護系大学協議会、本協議会等の関係者が一堂に会し、震災の収束に向けての今後の活動、連携の必要性について確認した。
 - ・義援金の呼びかけについては、公益法人である日本看護科学学会が中心となって口座開設等を行った。
 - ・本協議会の会員学会には、震災に関して、それぞれどのような活動を計画しているのか、情報交換を行い、ホームページに掲載するとともに、震災支援に関する担当者を決定していただき、ネットワークをつくるという作業を3月内に行った。

平成22年度の活動報告についての質問、意見

- ・質問 (日本老年看護学会)
科学研究費申請枠の拡大について質問したい。老年看護学が独立するように要請しているということであるが、それは地域看護学も独立することになるのか。

→回答 (島内理事)

要望書が通れば地域看護学も独立することになる。以上、平成22年度の事業報告について承認された。

2) 平成22年会計報告と承認

- (1) 会計報告 (河口てる子) (資料9)
- ・平成22年度会計について報告された。(河口てる子)
- (2) 会計監査報告 (資料9)
- ・平成22年度会計監査結果について報告された。(金川克子)
- 以上 平成22年度の会計報告について承認された。

3) 平成23年度 事業計画案 (太田喜久子) (資料10~12)

- ・資料にそって事業計画の説明があった。
- ・平成23年度より「東日本大震災支援事業」を立ち上げた。(資料11-1.2) (別紙1)
担当の太田理事より、資料をもとに事業立ち上げについての説明があった。
- ・具体的な活動は、被災地の健康ニーズの把握、支援している看護職者の把握等の情報収集とHPを通しての発信、メーリングリストを活用したネットワークの強化、関連団体との連携等である。7月23日には、東日本大震災支援に関する緊急シンポジウムを開催する予定である。また、シンポジウム終了後に各学会の窓口担当者が集まって情報交換をすることを計画している。
- ・支援に関する活動資金としては、公益法人である日本看護科学学会に事務局を担当していただき、すでに義援金のための口座が開設されている。(別紙1)
- ・支援金の運用については、日本看護科学学会の理事会で検討され、災害看護支援事業規程が作成された。第2条では、災害看護支援事業としての活動内容が、第4条では、支援事業を推進するための専門委員会の設置が規程されている。専門委員会は、日本看護科学学会の理事および本協議会の役員で構成されることになっている。第5条は、支援金交付対象についての規定であり、災害看護支援金は、日本看護科学学会が認める看護活動および支援活動を行う日本看護科学学会会員、日本看護系学会協議会会員団体の会員となっている。
- ・各会員学会の活動状況 (23学会) と窓口担当者については資料を参照されたい。(資料11-2)
- ・質問 (日本看護教育学会)

別紙1 災害看護支援事業規程 第5条の支援金交付対象には、日本看護科学学会の会員であり、かつ日本看護系学会協議会の会員である必要があるのか。

→回答 (片田理事)

日本看護科学学会の会員でなくても、日本看護系学会協議会会員団体の会員であれば、支援金の申請は可能である。以上、平成23年度の事業計画 (案) は承認された。

4) 平成23年度 予算案 (河口てる子) (資料12)

- ・事業計画案にもとづき予算案を計上した。
- ・意見 (日本看護管理学会)
平成22年度の事業内容からしてみると、本協議会はさまざまな活動をされており、ぎりぎりのところで運営されていることが推察される。平成23年度の予算についてもバランスが悪いことは承知の上での必要な予算であり、事業内容からみても妥当であると判断できるためこの案で承認したい。以上、平成23年度の予算案は承認された。

5) 選挙管理委員の選出 (太田喜久子)

- ・過去に選挙管理委員を担当していない学会で、現役員を除いた選挙管理委員の人選をお願いしたい。
 - ・日本看護管理学会、日本新生児看護学会、日本慢性看護学会を推薦したい。
- 以上、選挙管理委員選出学会については、承認された。

全体を通して

- ・質問 (日本地域看護学会)
日本看護科学学会が窓口になって義援金を募集しているが、日本看護系学会協議会に対して集まった義援金に関する報告義務をどのように負うのか。
→回答 (片田理事)
日本看護科学学会で検討したわけではないが、交付については日本看護系学会協議会と日本看護科学学会が情報を共有し、共同で検討した結果を、ニュースレター等を介して会員学会に対しても報告する予定である。現在、約170万円近くの寄付がある。今後、これをどのように活用していくかについては、事業規定に基づいて専門委員会で協議していただき、その結果を報告することになる。
- ・質問 (日本看護学教育学会)
日本学術会議との連携が重要であるが、今回のシンポジウム等も含めて共催してもよいのではないのか。
→回答 (南理事)
日本学術会議の後援となると幹事会に諮らなければならないが、看護学分科会との共催であれば可能性があるもので早速交渉してみたい。
- ・質問 (慢性看護学会)
今回の被災した地区のCNSを増加していくことは重要課題だと考えており、日本看護系大学協議会に要望書をだしているが、日本看護系学会協議会にもCNSと関連する学会がたくさんあるので、共に協力・検討していただきよい方向に向けて進みたい。→回答 (南理事)
その件については、7月23日のシンポジウムの中でも話題になると思われる。学会としてどのような活動が可能かということが検討課題となるであろう。

その他

7月23日 (土) の東日本大震災の関わるシンポジウムについて配布ポスターをもとに説明があった。(太田喜久子)

閉 会

以上

一編集後記一

今回、緊急シンポにより発災直後の貴重な災害看護活動を知ることができました。12月3日には、日本看護科学学会学術集会会場で、「東日本大震災-いま、求められる看護系学会の活動Part II」が開催されます。看護系学会が連携して、どのように中長期支援を展開していってよいか、ともに考える場といたしましょう。
(広報担当理事 田中美恵子)

学 会 名	理 事 長	学 会 連 絡 先						ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会 TEL	学会 FAX	学会 E-mail	宛先 (担当者)	
1 高知女子大学看護学会	松 本 女 里	781-0111	高知県高知市池2751-1 高知県立大学看護学部内	(088)847-5524	(088)847-5524	yamanaka@cc.u-kochi.ac.jp	松 本 女 里	http://www.kochi-wu.ac.jp/~nsgakkai/index.html
2 聖路加看護学会	山 田 雅 子	104-0044	東京都中央区明石町10-1	(03)3543-6391	(03)5565-1626		山 田 雅 子	http://sinr.umin.jp/
3 千葉看護学会	宮 崎 美 砂 子	260-8672	千葉県千葉市中央区泉1-8-1 千葉大学看護学部内		(043)226-2421	marikomj@faculty.chiba-u.jp	増 島 麻 里 子	http://cans.umin.jp/
4 日本家族看護学会	石 垣 和 子	261-0014	千葉県千葉市美浜区若葉2-10-1 千葉県立保健医療大学健康科学部内	(043)272-2869	(043)272-2869	family_chiba_u_2007@yahoo.co.jp	石 垣 和 子	http://square.umin.ac.jp/jarf/
5 日本看護科学学会	片 田 範 子	113-0033	東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201	(03)5805-1280	(03)5805-1281	jans-office@umin.ac.jp	片 田 範 子	http://jans.umin.ac.jp
6 日本看護学教育学会	小 山 眞 理 子	105-0012	東京都港区芝大門2-12-6 芝ハタビル402	(03)5472-7455	(03)5472-7465	jimukyoku@jane-ns.org	小 山 眞 理 子	http://www.jane-ns.org
7 日本看護管理学会	鶴 田 恵 子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内 日本看護管理学会事務局	(03)3409-1290	(03)3409-1290	janap@redcross.ac.jp	鶴 田 恵 子	http://janap.umin.ac.jp
8 日本看護技術学会	菱 沼 典 子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学大久保研究室 付 日本看護技術学会事務局	(03)5550-2253	(03)5550-2253	jsnas@slcn.ac.jp	菱 沼 典 子	http://www.jsnas.jp/
9 日本看護教育学会	永 野 光 子	260-8672	千葉県千葉市中央区泉1-8-1 千葉大学看護学部 看護教育教育研究分野気付	(043)226-2397	(043)226-2397	jasne-office@umin.ac.jp	舟 島 な を み	http://jasne.umin.jp
10 日本看護研究学会	山 口 桂 子	260-0015	千葉県千葉市中央区富士見2 丁目22番6号 富士ビル6階	(043)221-2331	(043)221-2332	jsnr@bridge.ocn.ne.jp	山 口 桂 子	http://www.jsnr.jp
11 日本看護診断学会	小 田 正 枝	160-0022	東京都新宿区新宿1-15-11 イマキイレビル (株)グローバルエクスプレス・国際会議センター内	(03)3352-6223	(03)3352-5421	jsnd@convention-access.com	任 和 子	http://jsnd.umin.jp/
12 日本看護福祉学会	岡 崎 美 智 子	810-0072	福岡県福岡市中央区長浜1-3-1 国際医療福祉大学 福岡看護学部天神キャンパス内	(092)739-4321	(092)739-4343	okazaki-m@iuhw.ac.jp	岡 崎 美 智 子	http://kangofukushi.sakura.ne.jp/
13 日本看護歴史学会	芳 賀 佐 和 子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	(03)3409-0613	(03)3409-0589	yamazaki@redcross.ac.jp	山 崎 裕 二	http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/
14 日本がん看護学会	鈴 木 志 津 枝	204-8575	東京都清瀬市梅園1-2-1 国立看護大学校 日本がん看護学会 飯野京子	(042)495-2354	(042)495-2639	iinok@adm.ncn.ac.jp	飯 野 京 子	http://jscn.umin.jp
15 日本救急看護学会	中 村 恵 子	164-0001	東京都中野区中野2-2-3 (株)へるす出版事業部内	(03)3384-8030	(03)3380-8627	jaen@herusu-shuppan.co.jp jaen-adm@umin.ac.jp	中 村 恵 子	http://jae n .umin.jp
16 日本クリティカルケア看護学会	黒 田 裕 子	252-0329	神奈川県相模原市南区北里2-1-1 北里大学大学院 看護学研究科クリティカルケア看護学 日本クリティカルケア看護学会事務局	(042)778-9385	(042)778-9385	jaccn-office@umin.ac.jp	黒 田 裕 子	http://jaccn.umin.jp/
17 日本災害看護学会	山 田 覚	781-0111	高知市池2751-1 高知女子大学看護学部内	(088)847-8705	(088)847-8705	jsdn@univcoop.or.jp	竹 崎 久 美 子	http://www.jsdn.gr.jp/
18 日本在宅ケア学会	白 澤 政 和	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 オサワビル2F (株)ワールドプランニング内 日本老年看護学会事務局	(03)5206-7431	(03)5206-7757	world@med.email.ne.jp	白 澤 政 和	http://plaza.umin.ac.jp/~jahhc/
19 日本手術看護学会	菊 地 京 子	113-0033	東京都文京区本郷3-19-7 本郷三宝ビル4F	(03)3813-0485	(03)3813-0539	jona@yacht.ocn.ne.jp	星 正 行	http://www.jona.gr.jp/index.shtml
20 日本循環器看護学会	吉 田 俊 子	981-3298	宮城県黒川郡大和町学苑1番1 宮城大学看護学部 吉田研究室内 日本循環器看護学会事務局 淡路 理智子	(022)377-8242	(022)377-8242	yosidats@myu.ac.jp	淡 路 理 智 子	http://janap.umin.ac.jp
21 日本小児看護学会	及 川 郁 子	166-8532	東京都杉並区和田3-30-22 大学生協学会支援センター内 日本小児看護学会事務局	(03)5307-1175	(03)5307-1196	jschn@univcoop.or.jp	及 川 郁 子	http://jschn.umin.ac.jp/
22 日本助産学会	堀 内 成 子	111-0054	東京都台東区鳥越2-12-2 日本助産師会館3階	(03)3865-3032	(03)3866-3032	jam1987@ninus.ocn.ne.jp	松 岡 恵	http://square.umin.ac.jp/jam/
23 日本新生児看護学会	宇 藤 裕 子	594-1101	大阪府和泉市室堂町840 大阪府立母子保健総合医療センター看護部内 日本新生児看護学会 事務局	(0725)56-3750	(0725)56-3750	neonatal@mch.pref.osaka.jp	宇 藤 裕 子	http://square.umin.ac.jp/~shinseij/
24 日本腎不全看護学会	水 附 裕 子	231-0005	神奈川県横浜市中区本町6-52 横浜エクスレントⅦ305 日本腎不全看護学会 事務局	(045)226-3091	(045)226-3092	a-uchida@sis.seirei.or.jp	内 田 明 子	http://www11.ocn.ne.jp/~jann1/
25 日本生殖看護学会	森 明 子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学内 日本生殖看護学会事務局	(03)6226-6380	(03)6226-6380	jsin@slcn.ac.jp	森 明 子	http://jsin.umin.jp
26 日本精神保健看護学会	田 中 美 恵 子	169-0075	東京都新宿区高田馬場4-4-19 株式会社国際文献印刷社内	(03)5389-6254	(03)3368-2822	japmhn-post@bunken.co.jp	野 末 聖 香	http://www.japmhn.jp/
27 日本赤十字看護学会	濱 田 悦 子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	(03)5485-5777	(03)5485-5777	jrcsns@redcross.ac.jp	川 嶋 み どり	http://jrcsns.umin.ne.jp/
28 日本地域看護学会	村 嶋 幸 代	113-0033	東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部地域看護学教室 内 日本地域看護学会事務局		(03)5841-3648	ckango@zfhv.ftbb.net	永 田 智 子	http://jachn.umin.jp/
29 日本糖尿病教育・看護学会	嶋 森 好 子	170-0004	東京都豊島区北大塚3-21-10 アーバン大塚3F (株)ガリレオ学会業務情報センター内 日本糖尿病教育・看護学会事務局		(03)5907-6364	g015jaden-mng@ml.gakkai.ne.jp	嶋 森 好 子	http://jaden1996.com/
30 日本難病看護学会	牛 込 三 和 子	183-8526	東京都府中市武蔵台2-6 東京都神経科学総合研究所 難病ケア看護研究部門内	(042)325-3881	(042)328-7311	nanbyo@auhw.ac.jp	牛 込 三 和 子	http://square.umin.ac.jp/intrac/

日本看護系学会協議会会員学会

2011年9月12日 現在

学 会 名	理 事 長	学 会 連 絡 先						ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会 TEL	学会 FAX	学会 E-mail	宛先 (担当者)	
31 日本母性看護学会	森 恵 美	260-8672	千葉県中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科 母性看護学教育研究分野内	(043)226-2412	(043)226-2414	jsmn.office@gmail.com	坂 上 明 子 小 澤 治 美	http://www.mcn.ac.jp/ bosei/
32 日本慢性看護学会	野 並 葉 子	673-8588	兵庫県明石市北王子町13-71 兵庫県立大学明石キャンパス 日本慢性看護学会 事務局	(078)925-9447	(078)925-0878	chronic.n@cna. u-hyogo.ac.jp	野 並 葉 子	http://jscicn.com/
33 日本ルーラルナース ング学会	野 口 美和子	329-0498	栃木県下野市薬師寺3311-159 自治医科大学看護学部に	(0285)58-7512		ynagai@jichi.ac.jp	永 井 優 子	http://www.jasrun.org/
34 日本老年看護学会	太 田 喜久子	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワ ビル2F (株) ワールドプランニン グ内 日本老年看護学会事務センター	(03)5206-7431	(03)5206-7757	world@med.email. ne.jp	太 田 喜久子	http://www.rounenkango. com/
35 日本看護医療学会	梶 田 悦 子	433-8558	静岡県浜松市北区三方原町3453 聖隷クリストファー大学看護学部に 日本看護医療学会事務局	(053)439-1400	(053)439-1406	jsnhc-jimu@seirei.ac.jp	大 西 文 子	http://www.jsnhc.org/ leftpages/ask/ask.html
36 日本看護倫理学会	高 田 早 苗	135-8550	東京都江東区有明3-8-31 癌研有明病院 看護部内 濱口恵子			keiko.hamaguchi@jfcf. or.jp	濱 口 恵 子	http://ine.umin.jp/
37 日本創傷・オスト ミー・失禁管理学会	真 田 弘 美	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラム ダックスビル10階 (株) 春恒社 学会事業部内 日本創傷・オストミー・失禁管理学会事務局	(03)5291-6231	(03)5291-2176	etwoc@shunkosha.com	真 田 弘 美	http://www.etwoc.org/
38 日本アディクション 看護学会	松 下 年 子	350-1241	埼玉県日高市山根1397-1 埼玉医科大学 保健医療学部 看護学科 松下年子研究 室内 日本アディクション看護学会事務局	(042)984-4925	(042)984-4922	jssan@saitama-med. ac.jp	日 下 修 一	http://plaza.umin.ac.jp/~ jaddictn/